

# 山見八野・秦 靈園工事が再開

## ヒナ巣立ち 業者確認 保護団体「拙速」と反発

秦野市渋沢の八国見山南面区域での大規模な霊園開発問題で、周辺の森で巣レッドデータブックで絶滅危惧種に指定されるタカ科「ノスリ」の営巣が確認されたことを受けて中断されていた工事が、24日に再開された。市民団体の指摘で

ノスリへの影響を考慮した市が5月中旬、事業者の「相模メモリアルパーク」(愛川町)に工事中断を要請、再開は7月1日の予定だった。

ノスリの保護を訴える「渋沢丘陵を考える会」などの自然保護グループ5団体が26日に、工事中断期間延長

を申し入れたのに対し、市側が明らかにした。市によると、事業者から「ヒナが20日前後に巣立っていないので、24日から工事を再開したい。重機の往来、土砂の掘削程度から徐々に始める」と説明があったという。市がこれを了解し、工事が再開された。

霊園計画地を含めた周辺一体は、県内でも数少ないノスリの繁殖地。確認されたヒナは進入道路工事現場近くの森にあり、今年ヒナ1羽がふ化していた。ノスリの繁殖期は、雄と雌が求愛行動に入った時期から、ヒナが自分でエサを捕るようになって親から独立するまでの期間。ふ化したヒナは巣の中で育てられた後、巣の外に出て営巣木の枝に移って親からエサをもらう。独立するのは一般的に8月末とされている。工事再開について、同会メンバーらは「巣

からいなくなっても、まだ親からエサをもらう枝移りの期間。独立するまで工事を中止すべきで、再開は拙速」と反発。市側は「事業者に伝える」と答えたという。



【高橋和夫】